



令和7年7月31日

奈良県田原本町

～持続可能な農業に向けて～ 農業用井堰の統合事業を進めています

田原本町では現在、大網地区と広陵町百済がそれぞれ管理している農業用井堰の統合に取り組んでいます。この取り組みは、地域や町の財政的な負担を軽減し、効率的な水管理を実現する先進的な事業です。

記

■現状と課題

田原本町内の一級河川には、現在 75 箇所の井堰が設置されています。これらの多くは、昭和50～60 年代に奈良県が実施した河川改修の一環として、農家の負担なしで整備されたものであり、現在は一斉に老朽化が進み、更新の時期を迎えています。

井堰の更新にあたっては、国や県の補助金を活用し、町が事業主体となって実施しつつ、その一部を農家の皆様にご負担いただく仕組みとしています。しかし、億単位の費用を要する事例も多く、町の財政に加え、農家の経済的負担も大きな課題となっています。さらに、補助金も要望どおりに確保できるとは限らないため、持続可能な維持管理体制の構築が急務となっています。

■課題解決とその経緯

こうした課題を踏まえ、本町では令和5年度に、早期の更新が必要とされた「大網井堰」と「柳井戸井堰(百済)」について、関係する自治会や水利組合、広陵町と連携し、井堰の統合に向けた協議を重ねました。その結果、令和6年度に関係者間で協定を締結し、合意形成が実現し、井堰の統合によって、財政負担や農家負担の軽減、水管理の省力化が可能となりました。

この地域では、かつての河川改修時にも統合案が検討されましたが、当時は関係者間の調整が難航し、個別整備に至った経緯があります。しかし近年、農業者の減少や高齢化、資材費の高騰など、農業を取り巻く環境が一層厳しさを増すなか、連携の必要性が再認識され、今回の合意に結びついたものです。

この取り組みは、奈良県内における同様の課題に対する先進的なモデルケースと位置づけられます。また、事業費についても、関係自治体及び水利関係者がそれぞれ分担することで、大幅な負担軽減が見込まれています。

■今後の予定

令和7年度は大網井堰の更新工事、令和8年度には柳井戸井堰の撤去工事を予定しています。なお、令和8年春に大網井堰の完成セレモニー開催を予定しております。

本事業を契機として、今後は井堰にとどまらず、水路や深井戸ポンプなどの農業基盤についても、統合・再編の可能性を視野に入れながら、関係者の皆様と丁寧に協議を重ね、持続可能な農業基盤整備を着実に推進してまいります。

※添付:広報たわらもと 令和7年8月号特集ページ「持続可能な農業に向けて」

この件に関するお問い合わせ先:

産業建設部まちづくり建設課(担当者:久保田) TEL:0744-34-2077

持続可能な農業に向けて

農業は、町の主要な地域産業の一つである一方、高齢化の進行や担い手の確保、耕作放棄地の増加など、さまざまな課題に直面しています。

これらの課題に対応するため、町では将来を見据えた持続可能な農業と地域の農業基盤のあり方を模索し、住民の皆さんと共に地域全体で支え合う仕組みづくりを進めています。

本特集では、ハード・ソフト両面から行っている町の農業に関する取り組みについて紹介します。

☎ かせぐ地域課農政係 ☎ 34-2080

まちづくり建設課建設係 ☎ 34-2077

地域計画を策定しています！

町では、農業経営基盤強化促進法に基づき、地域の農業の未来を支える「地域計画」策定を進めています。

地域計画って何？

地域の農業の現状と課題を把握し、10年後の農地を「誰が、どのように担うのか」を示す「目標地図」を作成するものです。

その他、将来の地域の農業のあり方や担い手、農用地の利用方針も定めます。



会合の様子
(蔵堂地区)

なぜ作成するの？

農業者の高齢化や担い手不足が進む中、農地の有効活用と集約化や農業経営の効率化を図り、持続可能な地域農業を築いていくために作成します。

今後の取り組み

地域計画未策定の自治会に対し、以下のような機会を設けます。詳細は、個別にお知らせします。

- 自治会役員や農業者向け説明会
- 計画案・目標地図作成に向けたワークショップ
- 計画案に対する住民の皆さんからの意見の募集

住民の皆さんへのお願い

地域計画は地域の農業者だけでなく、住民の皆さんの理解と協力が不可欠です。話し合いや意見交換の場にご参加いただき、ご意見をお聞かせください。

地域計画を策定した地域の人の声

八田は、地域の農家で農地を守るとの思いのもと、農業振興に取り組んできた地域です。特定農業振興ゾーンの指定や基盤整備などの県・町の後押しを受け、今日まで発展してきました。

しかし、農家の高齢化が進んでおり、このままでは農地の維持が困難になることから、このたび地域計画を策定することとしました。

営農の状況や担い手となる農家などについて整理し地図を作成したことで、現状や課題を明確にすることができたと考えています。

今後は、地域計画の策定地域に対する国や町の支援制度を活用しながら、地域農業を守る担い手への農地の集積・集約化、農業経営の効率化などに取り組んでいきたいと思っています。



八田自治会長
乾栄一さん

農業基盤の統合事業を進めています！

町では現在、大網地区と広陵町百済地区がそれぞれ管理している農業用井堰^{いせき}の統合に取り組んでいます。この取り組みは、地域や町の財政的な負担を軽減し、効率的な水管理を実現する先進的な事業です。

井堰と農業の現状

昭和 50 ～ 60 年代の河川改修に伴い整備された井堰は、現在一斉に老朽化し、更新の時期を迎えています。一方で、農業者の減少や高齢化、経費の高騰により、農業を取り巻く環境は厳しさを増しています。

協定と工事の流れ

こうした状況の中、井堰の統合により、水管理の省力化や農業基盤の安定につながると考え、令和 5 年度から大網・百済の自治会や水利組合、広陵町と協議を重ね、各種協定を締結しました。

これにより、百済・広陵町と事業費を分担することにより、大網・田原本町の負担が大きく軽減されています。工事は、令和 7 年度に大網井堰の更新を、令和 8 年度に百済井堰の撤去を予定しています。

お気軽にご相談ください

今後は井堰統合に加え、水路や深井戸ポンプなど他の水利施設の統合・再編についても、前向きに検討を進めます。井堰や水利施設の統合をご検討の際は、お気軽にまちづくり建設課までご連絡ください。

統合に関わった地域の人の声

「今が統合の好機。地域全体での再編を」

かつて県による河川改修時にも井堰の統合案がありましたが、当時は関係者の合意に至らず、それぞれの井堰が設置されました。今回、両地区の井堰が老朽化し更新時期を迎える中、自治会や水利組合で改めて協議を重ね、「今こそが統合のチャンス」との意見が一致し、百済・広陵町・田原本町との話し合いの末、統合することで合意しました。

農家の高齢化や経費増など、農業を取り巻く環境が厳しくなる中、連携の必要性が共有され、以前から井堰操作を協力して行っていた経験もスムーズな合意につながり、過去の経緯にとらわれずに、改めて検討する意義があったと感じています。

今後は、集落単位にとらわれず地形や水系を基にした広域的な視点での水利施設の再編が求められると考えています。そのためにも、施設が健全なうちから前向きな議論を始めることが重要だと思います。



大網自治会長
市川資朗さん

大網井堰

町独自の補助事業紹介

▶ 水利賦課金に対する補助金

大和平野・倉橋溜池土地改良区に水利賦課金を納めた農家に対し、補助金を交付

▶ 自給率向上対策補助金

推進作物等を生産する農業者に、生産面積に応じた補助金を交付

▶ 野菜生産出荷安定資金補助金

野菜の価格変動リスクに備える「野菜供給安定基金」の補給金における生産者負担額の 3 分の 1 を補助

NEW
8/1 ~
募集開始

田原本町耕作放棄地対策支援補助金

対象者 遊休農地の再生や農地の集約化に取り組む人

対象経費 農地整備費・農業用機械購入費など

補助率 対象経費の 2 分の 1 以内
(上限 50 万円)

詳細は広報たわらもと 9 月号・町ホームページをご覧ください。



今後の取り組み

▶ ブランド力向上への更なる取り組み

味間いもの GI (地理的表示) 登録に向けた検討を進めています。

▶ 学校給食で地産地消

給食で使用する米を 100% 町内産とする予定です (令和 9 年度から)。